
共同研究経過報告

(1991～1992年度分)

冠 詞 の 研 究

倉田 清・水野 光晴

〔研究経過報告〕 有冠詞諸言語の哲学的、心理学的な考察、冠詞相互の意味領域の分析、言語使用の際の冠詞の選択原理などの解明、有冠詞言語と無冠詞言語の比較研究などを行っている。昨年度は、有冠詞言語、とりわけ英語と仏語の冠詞使用の背後にある名詞表現構造について哲学的、心理学的考察を行った。メンバーの倉田と水野は、それぞれ仏語と英語の領域で以下の通り研究をすすめた。

倉田 清：昨年度は、フランス語の冠詞（定冠詞、不定冠詞、部分冠詞）を無限と有限（限定）の視点に基づいて、定冠詞の領域とその働きを「話し合いによる唯一物性」、「環境による唯一物性」、「一般知識による唯一物性」、「所属による唯一物性」などについて研究した。恩師、鷺尾猛教授の

世界的に有名な「鷺尾理論」と松原秀治教授の『現代フランス語における冠詞の用法』を検討しながら五点ほどの文献を通覧した。

水野光晴：昨年度は、とりわけ「個物」の表現にかかわる認識論的研究を行った。すなわち、一般に冠詞が付かない固有名詞の本質が何であるのか、普通名詞と固有名詞との相違はどこにあるのかについて、古くから哲学者や文法学者の間で議論されてきた問題を、言語過程説の視点から再解釈し、その成果を昨年8月にカナダのラバル大学で開催された第15回世界言語学会議で発表し、その概要を『神奈川大学言語研究』No.15に掲載した。さらに、定冠詞と不定冠詞、定冠詞とゼロ冠詞の機能上の相違を機能的語用論の立場から考察し、その教育的示唆を引き出した。この成果は昨年11月早稲田大学で開催されたプリティッシュ・カウンスル応用言語学会で発表し、その修正論文を『神奈川大学言語研究』No.15に掲載した。